

# 令和元年度 政策強化・融合等推進会議 の実施結果について

---

京都市総合企画局総合政策室  
SDGs・市民協働推進担当

## 1 目的

各局区等の庶務担当部長により構成される「政策強化・融合等推進会議」において、SDGsの推進、政策の融合等について議論を行う。

レジリエンス戦略(抜粋)

(2) 「レジリエンスのための政策強化・融合等推進会議」の設置

SDGs、京都創生総合戦略のほか、「関連計画等」(戦略冊子P27 参照)の取組との連携・融合の調整や、「更なる取組の検討案」の検討・具体化、行政分野を越えた政策の融合をはじめとする「レジリエンスの視点」の職員への普及、市民等との協働に向けた方策等の議論を進めるため、標記の「政策強化・融合等推進会議」※を設置します。



※ 全局・区等の庶務担当部長等により構成。

## 2 実施方法

令和元年度の会議のテーマは以下のとおり。

### (1)第一回

- ア 政策融合(連携)を進める上で必要なことは何か。
- イ 融合(連携)が必要と考えられる施策・事業はないか。

### (2)第二回～第四回

- ア 人口減少社会における2040年の京都に訪れる危機を考える。
- イ アで出された課題の対応策(アイデア)を考える。
- ウ イシューマップを作成し、課題の関係性を考える。
- エ レバレッジポイント(状況改善の力ギを握るポイント)を探す。
- オ アイデアを複数組み合わせて、課題ごとに対応策を考える。
- カ イノベーション、政策融合を意識し、より多くの課題に使える効果的な対応策を見付ける。

### (3)第五回

- ア 「本庁配属の職員も含めた全庁を挙げた体制の構築には、どんな課題があるか」を考える。
- イ グループ内でそれぞれのテーマに対するアイデア・解決策を議論し、2アイデア・解決策を深める。

## 【会議全般について】

- ・政策融合を検討するには、自由闊達な議論を促すため、ワークショップ形式でメンバー22名が5つのテーブルに分かれて、ファシリテーターによって進行を行うスタイルを基本とする。
- ・一回の会議時間は最大1時間のため、ワークショップは30分～40分ほどの短時間で集中した議論を行う。

## 【第二回～第四回について】

- ・レジリエンス戦略における、更なる取組の検討案の検討・具体化を政策融合の視点で検討するため、現行の政策を基に政策融合を図るのではなく、SDGsの理念を取り入れ、未来志向でバックキャスティングの検討手法を用いる。
- ・SDGsは2030年のあるべき姿を想定して検討を行うが、今回の検討においてはレジリエンス戦略に基づき2040年の京都に訪れる「危機」を想定し、バックキャスティングによるリスク回避を目的に、レジリエンスなまちをつくっていくにはどうすればよいか検討を行う手法を用いる。

### 3 内容

(1)第一回(令和元年7月19日)

①テーマ

ア 政策融合(連携)を進める上で必要なことは何か。

(あるいは、融合を進めるうえで、支障になっている課題はないか。)

イ 融合(連携)が必要と考えられる施策・事業はないか。

(部局間に陥っている施策・事業など)

②ねらい

今後、政策強化・融合等推進会議を進めていくうえで、重要なテーマとなる「融合(連携)」について考え、庶務担当部長が各局・区等の境界を越えて施策・事業を議論する場を設ける。

### ③進め方

#### 【ワークショップ】

- ・政策融合、連携を進める上で必要なことは何か。  
これまでの振り返りも含めて、なぜ融合が図れないのか、  
更なる融合には何が必要か、課題やアイデアを出す。
- ・現状の施策で融合・連携が必要と考えられる事業について、  
アイデア出しを行う。
- ・なお、ワークショップでは、KJ法を用いて自由に出された意見を  
グルーピングするところまでファシリテーターが行う。課題にアイデアが  
対応していないなくても良いので自由な意見をたくさん出す。

#### 【ワークショップ後】

- ・5つのテーブルから出された意見をさらに一つにまとめる。

## ④検討された主な内容・意見

### 【課題】

- ・業務量に応じたマンパワーが不足している。
- ・所管局が決まらない間となる事業もある。  
　ある程度のトップダウンが必要。
- ・根拠となる法令の壁(個人情報保護法等)があり, 所管官庁が異なるなど融合できにくいものがある。
- ・事業の実施に関して, 関係各所との調整もあって, 簡単に融合できない。

### 【アイデア】

- ・業務の優先順位を明確化し, 選択と集中を行うべき。
- ・思い切って採用の柔軟化を行い, 必要なときに必要なところに人を配置するサポートが必要
- ・企業のICT技術, RPA(Robotic Process Automation)を活用する。
- ・情報の共有化を行う。
- ・ビッグデータの活用, データベースの一元化。

## (2) 第二回(令和元年9月6日)

### ① テーマ

ア 人口減少社会における2040年の京都に訪れる危機  
を考える。

イ アで出された課題の対応策(アイデア)を考える。

### ② ねらい

全ての政策を所管し、豊かな職務経験を持つ庶務担当部長  
一人ひとりが、考え得る課題やアイデアを幅広く、自由に意見  
を出すことにより、短時間により多くの情報を提供してもらう。



### ③進め方

#### 【ワークショップ】

- ・議論の前提となる情報として、2040年の本市における想定人口、人口ピラミッド、想定される課題を事務局側から簡単に説明。  
(誘導するのではなく、参加者にイメージしてもらうのが目的)
- ・ワークショップでは、KJ法を用いて自由に出された意見をグルーピングするところまでファシリテーターが行う。課題にアイデアが対応していくなくても良いので自由な意見をたくさん出す。

#### 【ワークショップ後】

- ・5つのテーブルから出された意見をさらに一つにまとめる。
- ・それぞれまとめた課題とアイデアをカード化する。

## ④検討された主な内容・意見

### 【2040年の京都に訪れる危機】

- ・税収減少, 担い手不足から農林業や介護への影響があるのではないか。
- ・コミュニティの低下, 施設やインフラの維持が困難になる。
- ・長く働くことができる社会の中で雇用のミスマッチ等が起こる。

### 【対応策(アイデア)】

- ・行政が例えば税, ごみ, 福祉などやらなければならない分野に特化していくことも考えられる(選択と集中)。
- ・自治体の統廃合等が考えられる。
- ・AIなどを活用し, 新しいロボットの技術を担い手不足に対応させていく必要がある。

### (3) 第三回(令和元年11月1日)

## ① テーマ

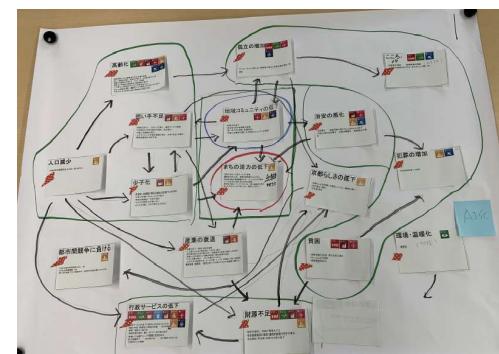
ア イシュー・マップを作成し、課題の関係性を考える。

イ レバレッジポイント(状況改善の力ギを握るポイント)を探す。

## ②ねらい

第二回のワークショップで出された課題には、それが関係性を持つ、互いに影響し合うという仮説（社会を一つの生態系として捉えることによる）を立て、影響を受けやすい課題、影響を与えやすい課題を洗い出す。

また、課題がループを描き、悪循環を起こしているところがないか探し、そこを「レバレッジポイント」として、より優先して改善を打つべきポイントと位置付ける。



### ③進め方

#### 【ワークショップ】

- ・あらかじめ事務局でカード化しておいた課題を模造紙に並べておく。  
参加者は、カードを見て課題の関係性を考え、課題の位置関係(配置)を考え、関係性を示す矢印を鉛筆で下書きしていく。
- ・カードの配置と関係性が決まったら、模造紙に貼り付けてマジックで関係性の矢印を清書してイシューマップを完成させる。
- ・完成したイシューマップから矢印が循環しているポイントを見付け、  
そこをレバレッジポイント(状況改善の力ギを握るポイント)として位置付ける。

#### 【ワークショップ後】

- ・5つのテーブルごとに出来たイシューマップの課題ごとに矢印の向き(入と出)の数をカウントする。
- ・全てのテーブルの課題をカウントし、影響を与えやすい課題と影響を受けやすい課題を明らかにする。
- ・課題の相関関係で傾向を分析する。

## ④検討された主な内容・意見

### 【課題の関係性】

- ・課題の相関関係については5つのマップの「矢印の数」を出入表として集計し、分析した。
- ・他の課題から影響を受けやすい課題の上位5つは、「財源不足」「まちの活力の低下」「担い手不足」「治安の悪化」「都市間競争に負ける」。
- ・他の課題に影響を与えやすい課題の上位5つは、「行政サービスの低下」「産業の衰退」「担い手不足」「地域コミュニティの低下」「少子化」。

### 【レバレッジポイント(状況改善のカギを握るポイント)】

- ・「担い手不足」は、「人口減少」、「少子化」、「高齢化」の影響を受けている。また、「産業の衰退」、「財源不足」、「行政サービスの低下」につながり、それらの影響が「地域コミュニティの低下」、「まちの活力の低下」につながるサイクルとなっている。
- ・「行政サービスの低下」は、上で述べたサイクルを含め、多くの課題に悪い影響を与える。
- ・「担い手不足」とともに、レバレッジポイントとして「産業の衰退」及び「地域コミュニティの低下」が考えられるが、「地域コミュニティの低下」は現代の生き方やライフスタイル、価値観の変化と関連があると考えられる。

※ 相関関係は、テーマ設定によって変わる。

## (4)第四回(令和元年12月20日)

### ①テーマ

ア アイデアカードを使って、課題ごとに対応策を考える。

※対応策を考える際にイノベーション、政策融合を意識する。

イ より多くの課題に使える効果的な対応策を見付ける。

### ②ねらい

第二回のワークショップで出された対応策(アイデア)は各課題に共通して使えるため、アイデアカードを複数組み合わせることで、新たな対応策(アイデア)が創出される(イノベーション)。

また、違う課題でも同じ対応策が使えるのであれば、より効果的な対応策ということになる。

第三回のワークショップで作られたイシューマップで課題が隣にある(近接している)ものに対応する政策は融合を意識するべきであり、矢印がより多く出ている課題に対応する政策は他への影響を与えやすく、逆に矢印がより多く入ってくる課題は、矢印の出所にある課題に対応する政策と融合(連携)しないことには解決が進まないということを意識することもできる。

### ③進め方

#### 【ワークショップ】

- ・前回のテーブルとメンバーを引き継ぎ、振り返りを行う。
- ・レバレッジポイントになっている課題について、解決する改善策(アイデア)カードを複数置いていく。  
複数の改善策カードを使い、組み合わせることにより新たな発想を生み出す。
- ・複数のカードを使って出来たもの(新発想)をイノベーションカードとして、付箋に記載して貼り付けていく。(似たようなイノベーションカードはグルーピングし、施策・事業レベルで1テーブル3つほどにまとめる)
- ・各テーブルで検討したイノベーションカードを取りまとめる。

#### 【ワークショップ後】

- ・5つのテーブルで出たイノベーションカードにSDGsの目標(番号)を付記し、本市の関係する政策に対応。
- ・政策の優先順位については、取りまとめておく。



## (5) 第五回(令和2年2月10日)

### ① テーマ

ア 「本庁配属の職員も含めた全庁を挙げた体制の構築

(より円滑に選挙事務と災害対応を強化する)には、どんな課題があるか」を考える。

イ グループ内でそれぞれのテーマに対するアイデア・解決策を議論し、  
アイデア・解決策を深める。

### ② ねらい

近年の台風等の被害が甚大化 しており、区役所等のみでの災害対応が厳しい状況にある。

また、投票所事務従事者の確保など、選挙事務についても同様のことがいえる。  
現在、本庁配属の職員も含めて全庁を挙げた体制の確保が求められており、  
制度設計に係る課題やアイデア・解決策を全庁の庶務担当部長が様々な  
経験をもとに議論する。

### ③進め方

#### 【ワークショップ】

- ・テーブルごとに課題を付箋に書いて議論する。
- ・議論後、参加者が最も関心があること等をA4用紙に記入し、その用紙を持って会場内を歩き、似たことを書いている人や一緒に議論すると化学反応を起こせそうなメンバーとグループをつくる。
- ・グループ内でそれぞれのテーマに対するアイデア・解決策を議論し、アイデア・解決策を深める。
- ・各テーブルで検討したアイデア・解決策を取りまとめる。

#### 【ワークショップ後】

- ・5つのテーブルで出たアイデア・解決策をとりまとめ、制度設計の検討に活用する。